

徳島大学 医学部 保健学科概要 2017

Introduction to
School of Health Sciences
Faculty of Medicine
Tokushima University



人間
医療
科学 福祉



目次

学科長挨拶	1
基本理念・カリキュラムポリシー	2
学生受け入れ方針・学位授与の方針	3
沿革	4
教育研究組織	5
教職員	6
看護学専攻	10
放射線技術科学専攻	12
検査技術科学専攻	14
教育課程	16
授業科目一覧	17
学生定員・入学生地域別比率	18
入学試験実施状況	19
大学院（保健科学教育部）	20
キャンパスライフ	24
アクセス・建物配置図	25

徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。（平成26年3月26日）

- 認証評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構
- 認証期間：7年間（平成26年4月1日～平成33年3月31日）



ごあいさつ

徳島大学医学部保健学科は、平成13年10月に設置され、平成18年4月に、保健科学教育部博士前期課程(修士課程)、平成20年4月には博士後期課程が設置されました。学科から博士前期・後期課程まで一貫した教育体制が整ったなかで、幅広い教養と豊かな人間性を基盤とし、保健学の高度な専門性と実践的な臨床能力を兼ね備えた人材育成をめざしています。

保健学科には、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻の3専攻があり、看護師、保健師(選択)、診療放射線技師、臨床検査技師の国家試験受験資格、また選択により養護教諭一種免許状や遺伝子分析科学認定士試験受験資格が得られます。カリキュラムは、各専門の知識・技術を修得する科目を中心に、医療人としての基本的姿勢を養う科目を設定しています。また、保健学科のある蔵本キャンパスには、医学部、歯学部、薬学部の3学部があり、この特徴を活かした他学部・学科と連携した教育プログラムからチーム医療マインドを育む教育に取り組んでいます。高度医療が展開されている大学病院が隣接していることも強みであり、臨床と教育が連携したなかで臨床現場のリアリティを身近に感じながらより実際の教育を推進しています。さらに、グローバルな視野から保健医療を探求し、多様な価値観を養うことも重点化しています。現在は、ネイティブな教授によるInternational Nursing Basic Courseの開講やフロリダ・アトランティック大学(米国)とメトロポリア応用科学大学(フィンランド)との学生交流、セントポール大学(フィリピン)の語学研修プログラムを進めています。

一方、大学院は、生涯健康支援学領域(前期課程:看護学領域)、医用情報科学領域、医用検査学領域の3つの領域があり、教育・研究者の育成はもとより、助産実践コースや養護教諭(専修免許状)、あるいは専門看護師や医学物理士などの高度医療専門職者を養成するカリキュラムを設定しています。基礎教育課程にある学生にとっては、資格取得だけがゴールではなく、自分の将来像をイメージし、キャリアをどのように積み重ねていくのか、大事な関心事項です。学科-大学院が一貫した体制のなかで、グローバルな視座から高い志をもって社会に貢献できる医療専門職者としての成長を期待するとともに、生涯学習者として自己研鑽し続ける姿勢を育成することをめざしています。



保健学科長 雄西 智恵美



基本理念

高度化、専門化する医療を支え、保健・医療・福祉において多様化するニーズに対応できる有能な医療人を養成します。人間尊重の倫理に立脚した高い使命感や、専門的知識・技能と同時に、チームの一員としての協調性を有し、国際的な視野をもって医療および福祉の発展を支えることのできる人材を養成します。

カリキュラムポリシー

保健学科では、幅広い教養と豊かな人間力を基盤として、保健学の高度な専門性と実践的な臨床能力を兼ね備えた人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。

- 1 「教養教育」を通じて、人間・文化・社会・自然に係る幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観を修得させるとともに、持続可能な社会づくりの担い手たる資質としての進取の気風を身につけさせる。
- 2 「教養教育科目」、及び「学科共通科目」の講義と様々な体験を通し、社会性及び人間関係の形成を理解させ、医療人として必要な人間力とコミュニケーション能力を修得させる。
- 3 「学科共通科目」及び「専門科目」を通じて、専門知識と技術を系統的、段階的に修得させる。知識・理解を深めるための基礎科目、汎用的技能や態度・志向性を高めるための演習・実習、統合的な学習経験と創造的思考力を育むための実習を通し、保健学の複合的な視点から高度な専門分野を理解させる。
- 4 客観的臨床能力評価に基づいて基本的臨床技術を修得させ、「臨地・臨床実習」を通じて、実践的な臨床能力及び多様な問題解決能力を身につけさせる。
- 5 「学科共通科目」及び「専門科目」の主体的な選択に基づく学習を通じて専門性を深化させ、「研究」により自主的・創造的な学究の姿勢と専門分野における主体性・指導性を修得させる。

学生受け入れ方針

看護学専攻

国際化、高度化する医療の発展を支える看護学の知識・技術を修得するために必要な基礎学力を備えるとともに、健康の維持・増進、生活の質を高めるにふさわしい潜在的資質を有する人を求めています。

放射線技術科学専攻

先進的な放射線科学を修得するために必要な理数系の基礎学力に優れ、医学に対する幅広い知識の修得を積極的に行い、医療人としての豊かな人間性とチームワーク精神を自ら高め、診療放射線技師資格取得をめざす明確な目的意識をもった、医療の発展に寄与できる資質を有する人を求めています。

検査技術科学専攻

医学ならびに医療に対する関心が高く、国際的な視野と豊かな人間性を持ち、医療人として臨床検査技術を身につけ、応用できる能力を育成するために必要な学力を有する人を求めています。

学位授与の方針

看護学専攻及び放射線技術科学専攻・検査技術科学専攻では、次の能力を有すると認められた者にそれぞれ、学士(看護学)及び学士(保健学)の学位を授与する。

1. 知識・理解

- (1) 幅広い教養と専門分野に関する学問知識を修得している。
- (2) 人間性・科学性及び国際性を身につけ、医療の担い手としての基本的能力を有する。

2. 汎用的技能

患者・家族等及び医療チームのスタッフと円滑なコミュニケーションをとり、客観的評価に基づいた臨床能力を持って医療人としての役割を果たすことができる。

3. 態度・志向性

各専門分野で指導的立場に立ち、高度化・専門化する医療を支え、専攻分野*の発展に寄与することができる。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

基礎理論から高度な臨床応用へ至る系統的かつ実践的な学習経験を基盤として、保健、医療、福祉分野の多様化するニーズに対応し、最新の技術や医療情報に基づいて自らの能力・専門性を高めることができる。

※専攻分野は、看護学専攻においては看護学、放射線技術科学専攻・検査技術科学専攻においては保健学



現在

徳島大学医学部附属看護学校

- 昭和18年 4月 徳島県立徳島医学専門学校看護婦養成所
 - 昭和20年 4月 徳島医学専門学校附属医院看護婦養成所に改称
 - 昭和24年 4月 徳島医科大学附属医院厚生女子部 設置
 - 昭和24年 5月 徳島大学医学部厚生女子部に改称
 - 昭和26年 3月 徳島大学医学部附属看護学校に改称
- (平成 2年 3月 廃止)

徳島大学医学部附属診療放射線技師学校

- 昭和35年 4月 徳島大学医学部附属診療エックス線技師学校設置
 - 昭和44年 4月 徳島大学医学部附属診療放射線技師学校設置
- (平成 2年 3月 廃止)

徳島大学医学部附属臨床検査技師学校

- 昭和38年 4月 徳島大学医学部附属衛生検査技師学校設置
 - 昭和47年 4月 徳島大学医学部附属臨床検査技師学校設置
- (平成 2年 3月 廃止)

徳島大学医学部附属助産婦学校

- 昭和32年 4月 徳島大学医学部附属助産婦学校設置
- (平成 3年 3月 廃止)

徳島大学大学院保健科学教育部【博士後期課程】

(平成20年 4月 設置)
保健学専攻



昭和42年～47年

徳島大学大学院保健科学教育部【博士前期課程】

平成18年 4月 修士課程設置
保健学専攻
平成20年 4月 博士前期課程に改称

博士前期課程
平成24年 4月 助産実践コース開設

徳島大学助産学専攻科

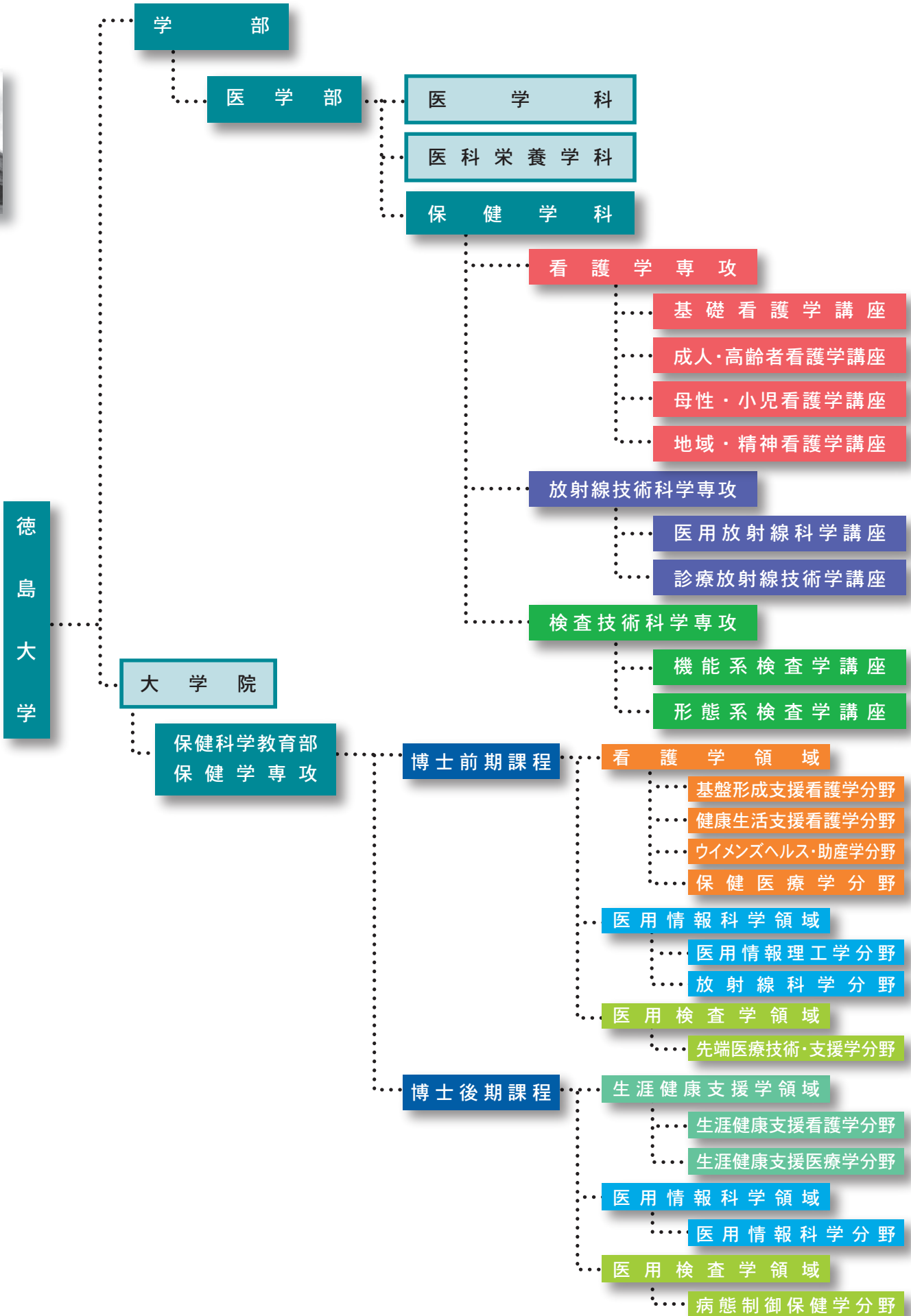
(平成18年 4月 設置)
(平成24年 3月 廃止)

徳島大学医学部保健学科

(平成13年10月 設置)
看護学専攻
放射線技術科学専攻
検査技術科学専攻

徳島大学医療技術短期大学部

(昭和62年10月 設置)
看護学科
診療放射線技術学科
衛生技術学科
専攻科助産学特別専攻
(平成 3年 4月 設置)
(平成17年3月 廃止)



保健学科 School of Health Sciences

保健学科長
Director

雄西 智恵美
Chiemi ONISHI

職名
Position

氏名
Name

主な研究事項
Academic Field

看護学専攻

Major in Nursing

基礎看護学

Fundamental Nursing

教授
Professor

ロクシン ロザーノ
Rozzano LOCSIN

看護技術学
Nursing Art and Nursing Science, Caring

教授
Professor

谷岡 哲也
Tetsuya TANIOKA

アウトカム管理学
Nursing Outcomes Management

教授
Professor

岩佐 幸恵
Yukie IWASA

看護教育学
Nursing Education

准教授
Associate Professor

安原 由子
Yuko YASUHARA

アウトカム管理学
Nursing Outcomes Management

助教
Assistant Professor

飯藤 大和
Hirokazu ITO

看護技術学
Nursing Art and Nursing Science

成人・高齢者看護学

Adult and Gerontological Nursing

教授
Professor

雄西 智恵美
Chiemi ONISHI

がん看護, ストレス緩和ケア
Cancer Nursing, Stress-coping and palliative care

教授
Professor

近藤 和也
Kazuya KONDO

外科腫瘍学, がん医療体制, 周術期QOL
Surgical Oncology, Cancer Medical Services, Perioperative QOL

教授
Professor

田村 綾子
Ayako TAMURA

成人看護学, リハビリテーション看護, 脳神経看護
Clinical Practice in Adult Nursing, Rehabilitation Nursing, Critical Care, Neuroscience Nursing

准教授
Associate Professor

南川 貴子
Takako MINAGAWA

成人・高齢者看護学, リハビリテーション看護, 脳神経看護
Clinical Practice in Adult and Elderly Nursing, Rehabilitation Nursing, Neuroscience Nursing

准教授
Associate Professor

今井 芳枝
Yoshie IMAI

成人・高齢者看護学, がん看護
Clinical Practice in Adult and Elderly Nursing, Cancer Nursing

助教
Assistant Professor

板東 孝枝
Takae BANDO

成人・高齢者看護学, 周手術期看護, がん看護
Clinical Practice in Adult and Elderly Nursing, Perioperative nursing, Cancer Nursing

助教
Assistant Professor

日坂 ゆかり
Yukari HISAKA

成人・高齢者看護学, リハビリテーション看護, 脳神経看護
Clinical Practice in Adult and Elderly Nursing, Rehabilitation Nursing, Neuroscience Nursing

助教
Assistant Professor

高橋 亜希
Aki TAKAHASHI

成人・高齢者看護学, がん看護
Clinical Practice in Adult and Elderly Nursing, Cancer Nursing

母性・小児看護学

Maternal and Pediatric Nursing

教授 Professor	岸田 佐智 Sachi KISHIDA	母性看護学, 女性の健康, 生殖看護 Maternity Nursing, Women's Health, Fertility Nursing
教授 Professor	葉久 真理 Mari HAKU	助産学 Midwifery
教授 Professor	森 健治 Kenji MORI	発達障害医学 Medicine on Developmental Disabilities
教授 Professor	安井 敏之 Toshiyuki YASUI	生殖医学, 更年期医学 Reproductive Medicine, Climacteric Medicine
准教授 Associate Professor	橋本 浩子 Hiroko HASHIMOTO	小児看護学 Child and Family Nursing
講師 Associate Professor	竹林 桂子 Keiko TAKEBAYASHI	助産学 Midwifery
助教 Assistant Professor	桑村 由美 Yumi KUWAMURA	女性の健康, 慢性看護学 Women's Health and Chronic Illness Conditions in Nursing
助教 Assistant Professor	福岡 美和 Miwa FUKUOKA	母性看護学, 女性の健康 Maternity Nursing, Women's Health
助教 Assistant Professor	高橋 久美 Kumi TAKAHASHI	小児看護学 Child and Family Nursing
助教 Assistant Professor	近藤 彩 Aya KONDO	助産学 Midwifery

地域・精神看護学

Community and Psychiatric Nursing

教授 Professor	岩本 里織 Saori IWAMOTO	公衆衛生看護学 Public Health Nursing
教授 Professor	友竹 正人 Masahito TOMOTAKE	メンタルヘルス支援学 Mental Health
教授 Professor	奥田 紀久子 Kikuko OKUDA	学校保健学 School Health
准教授 Associate Professor	松下 恭子 Yasuko MATSUSHITA	在宅看護学 Home Care Nursing
准教授 Associate Professor	岡久 玲子 Reiko OKAHISA	地域看護学 Community Health Nursing
准教授 Associate Professor	田中 祐子 Yuko TANAKA	学校保健学 School Health
准教授 Associate Professor	千葉 進一 Shinichi CHIBA	精神看護学 Psychiatric and Mental Health Nursing
講師 Associate Professor	大坂 京子 Kyoko OSAKA	学校保健学 School Health
助教 Assistant Professor	多田 美由貴 Miyuki TADA	地域看護学 Community Health Nursing
助教 Assistant Professor	堤 理恵 Rie TSUTSUMI	精神看護学 Psychiatric and Mental Health Nursing

職名 Position	氏名 Name	主な研究事項 Academic Field
医用放射線科学 Radiologic Science and Engineering		
教授 Professor	吉永 哲哉 Tetsuya YOSHINAGA	医用画像機器工学, 非線形システム工学 Medical Image Equipment Engineering, Nonlinear System Engineering
教授 Professor	阪間 稔 Minoru SAKAMA	核・放射化学, 核物理学, 放射線計測学, 分析化学 Nuclear and Radiochemistry, Nuclear Physics, Radiation Measurement, Analytical Chemistry
教授 Professor	森田 明典 Akinori MORITA	放射線生物学, 放射線腫瘍学 Radiation Biology, Radiation Oncology
准教授 Associate Professor	河野 理 Satoru KOHNO	医用画像工学, 認知神経科学 Medical Imaging Technology, Cognitive Neuroscience
助教 Assistant Professor	林 裕晃 Hiroaki HAYASHI	放射線計測, 原子核物理学 Radiation Measurement, Nuclear Physics
助教 Assistant Professor	兒島 雄志 Takeshi KOJIMA	医用画像機器工学, 非線形システム工学 Medical Image Equipment Engineering, Nonlinear System Engineering
診療放射線技術学 Radiologic Technology		
教授 Professor	上野 淳二 Junji UENO	放射線診断学 Diagnostic Radiology
教授 Professor	生島 仁史 Hitoshi IKUSHIMA	放射線腫瘍学, 画像誘導放射線治療 Radiation Oncology, Image Guided Radiation Therapy
教授 Professor	大塚 秀樹 Hideki OTSUKA	画像診断手法を用いた機能・代謝解析, 分子イメージング Molecular imaging and functional/metabolic analysis using diagnostic imaging modality
准教授 Associate Professor	西原 貞光 Sadamitsu NISHIHARA	医療用画像における画質と被曝の評価および 診断情報の付加に関する研究 Studies on image quality and patient dose in medical radiography and on extraction of additional diagnostic information
講師 Associate Professor	井村 裕吉 Hiroyoshi IMURA	医用画像の明暗知覚に関する研究 Contrast Perception on Medical Images
助教 Assistant Professor	高尾 正一郎 Shoichiro TAKAO	骨軟部疾患の画像診断 Musculoskeletal imaging
助教 Assistant Professor	富永 正英 Masahide TOMINAGA	CTにおける画質と患者被曝線量評価に関する研究 Evaluation of image quality and patient dose in Computed Tomography
助教 Assistant Professor	金澤 裕樹 Yuki KANAZAWA	MRIを中心とした非侵襲的イメージング手法と解析法の研究 Developments of noninvasive bioimaging and analytical methods using MRI.

機能系検査学

Functional Laboratory Science

教授 Professor	遠藤 逸朗 Itsumo ENDO	代謝性骨疾患, 内分泌および代謝異常症の病態解明 Elucidation of the pathophysiology of metabolic bone disease, endocrine and metabolic disorders.
教授 Professor	細井 英司 Eiji HOSOI	血液細胞分化過程における血液型抗原の発現機構に関する研究, 免疫細胞の細胞内Ca ²⁺ シグナル伝達とその機構調節に関する研究 Molecular mechanism of histo-blood group antigen expression during hematopoietic cell differentiation, Regulatory mechanism of intracellular Ca ²⁺ signal transduction in immune cells
准教授 Associate Professor	富永 辰也 Tatsuya TOMINAGA	糖尿病性腎症発症メカニズムの解明 Elucidation of pathogenic mechanism of diabetic nephropathy.
助教 Assistant Professor	櫻井 明子 Akiko SAKURAI	分子病態検査学 Molecular Pathophysiology
助教 Assistant Professor	安藝 健作 Kensaku AKI	血液型判定法の開発とその臨床的応用 The evaluation of histo-blood group ABOtyping and their application in clinical laboratories

形態系検査学

Morphological Laboratory Science

教授 Professor	片岡 佳子 Keiko KATAOKA	ヒトの健康保持における腸内菌の役割の重要性についての研究, 日和見感染菌の抗菌薬抵抗性に関する研究, 病原細菌の迅速診断法 Importance of intestinal bacteria in human health, Antimicrobial tolerance in opportunistic bacteria, Rapid detection of pathogenic bacteria
教授 Professor	香川 典子 Noriko KAGAWA	人体病理学, 筋ジストロフィー剖検例の病理組織学的検討 Human pathology, Histopathological study of autopsy cases in progressive muscular dystrophy
准教授 Associate Professor	濱野 修一 Shuichi HAMANO	電子スピン共鳴(EPR)測定法による生体高分子の酸化修飾機構の解明と, 臨床病理診断への応用 Elucidation of the mechanism for oxidative modification of biological samples by electron paramagnetic resonance spectroscopy, and its application for clinical pathology.
助教 Assistant Professor	金井 麻衣 Mai KANAI	救急医療検査学 Emergency medical technology



概要

専攻の理念

生命尊重を基調とした高潔な人格形成を図るとともに、科学性、倫理性を基盤にした看護実践ができる専門職の育成を目指します。さらに将来において看護学の教育・研究・管理を担うことができるスペシャリストの育成を目指し、保健・医療・福祉の充実や発展に寄与します。

教育目標

- 人としての権利と自由を尊重して判断・行動できる能力を養います。
- 他者との相互関係を形成・発展できる能力を養います。
- 個人あるいは集団の健康問題をアセスメントし、解決できる能力を養います。
- 保健医療福祉チームにおけるマネージメント能力を養います。
- 看護の教育・研究・管理を担うことができる基礎的

能力を養います。

- 生涯にわたって自ら学習・研鑽する姿勢を養います。

専門領域

基礎看護学：看護学全体に共通する哲学、目的論、対象論、方法論を看護理論を基に学びます。加えて、看護を実践する上で共通するアセスメント技術、生活援助技術、診療補助技術を学びます。基礎的な力を確実に習得するために「ヘルスアセスメント」、「看護技術」の時間を多く設けています。

成人・高齢者看護学：成人期から老年期に至る人の発達課題と生活の特徴、病気や障害による日常生活への影響、回復支援のための看護方法を学びます。また、医療施設での看護に必要なモニタリング技術や治療過程にある人に対する援助技術を学びます。さらに、社会的要請の高いがん医療に関する基礎を学習するために「がん看護



論」, 高齢者の多い地域の特徴を考慮して「リハビリテーション看護論」を設けています。

母性・小児看護学：女性の健康および妊娠・出産・育児の時期にいる女性と家族、また子どもと家族の健康を維持増進するために必要な看護援助を学びます。育児支援の重要性から「子どものメンタルヘルス」、「母児関係論」の科目を設けています。

地域・精神看護学：あらゆる成長発達段階にある個人及び集団について地域生活支援に焦点をあてた看護を学びます。また精神的な健康問題の予防や看護について学びます。それらを基に地域・在宅・学校・産業等の場での生活の質を維持するための、健康問題の予防・解決に必要な援助を学びます。総合的な視点でケア提供ができる看護職を目指して「ケアマネジメント」や「健康管理論」を設けています。選択科目として、保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状取得のための科目も開講します。

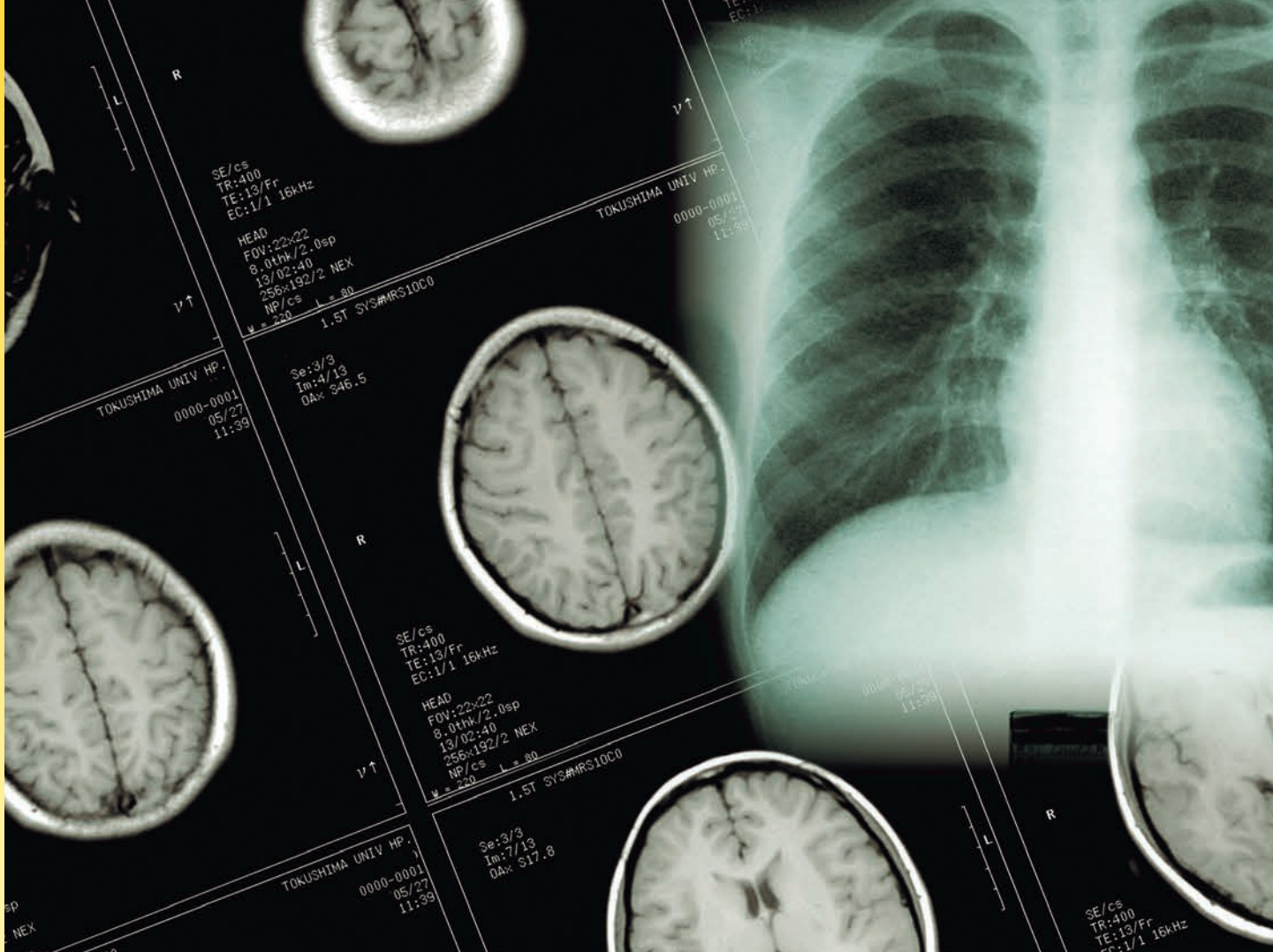
卒業後は ...

進路

- 国公立病院, 大学病院
- 保健所, 市町村, 事業所, 訪問看護ステーション
- 小・中・高等学校
- 大学院進学 (助産実践コースを含む)

取得可能な資格

- 看護師国家試験受験資格, 保健師 (科目選択による) 国家試験受験資格
- 養護教諭一種免許状授与の所要資格 (科目選択による, 人数に制限があります)。
- 保健師国家試験合格者は、「第一種衛生管理者の所要資格」を得ることができます。さらに, 所定の科目を履修することにより, 「養護教諭二種免許状授与の所要資格」を得ることができます。



概要

専攻の理念

放射線医療についてのしっかりとした基礎知識と技術を修得し、豊かな人間性と科学的な判断力を持ち、さらに将来にわたり専門的知識と個々の患者さんを意識した医療技術を自ら高め、医療現場の管理と放射線技術学の教育、研究ができる人材を養成します。

教育目標

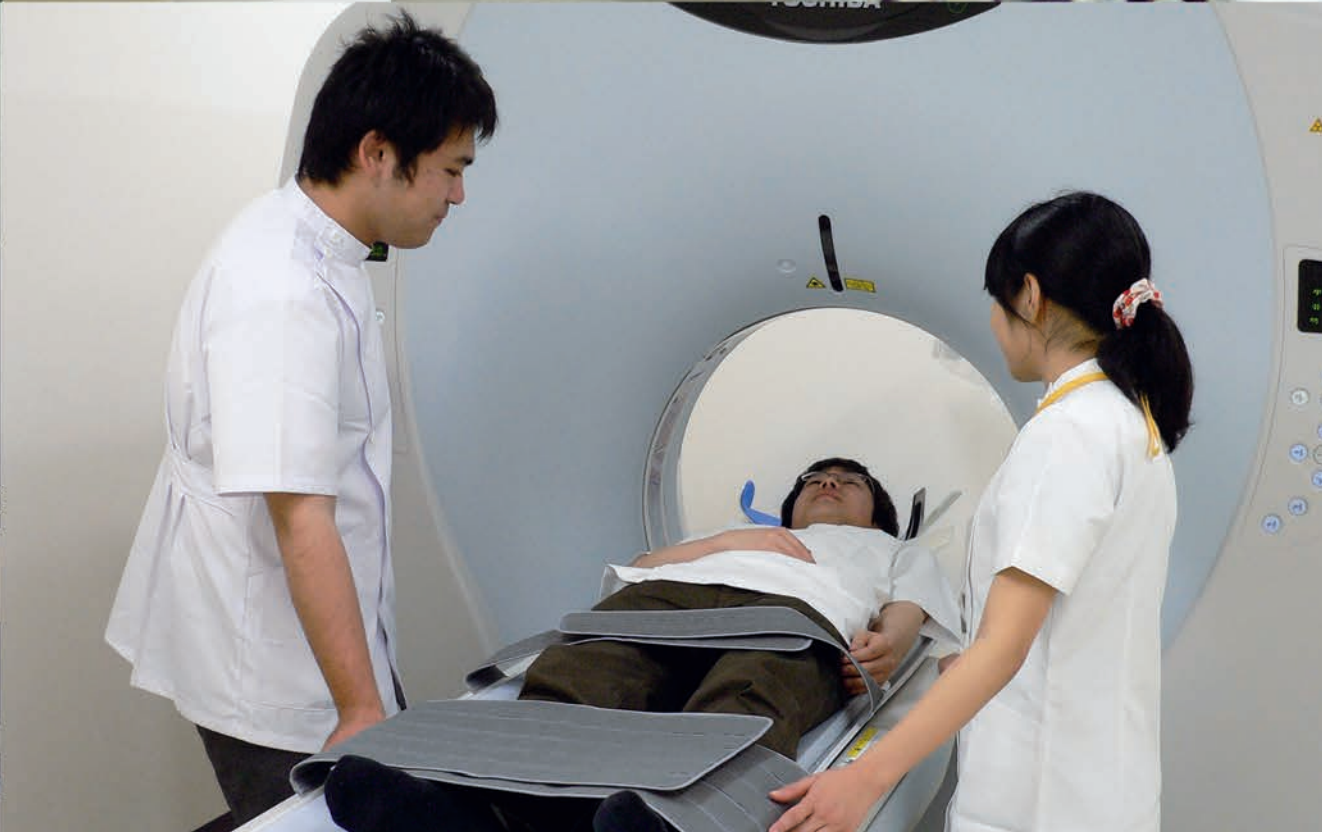
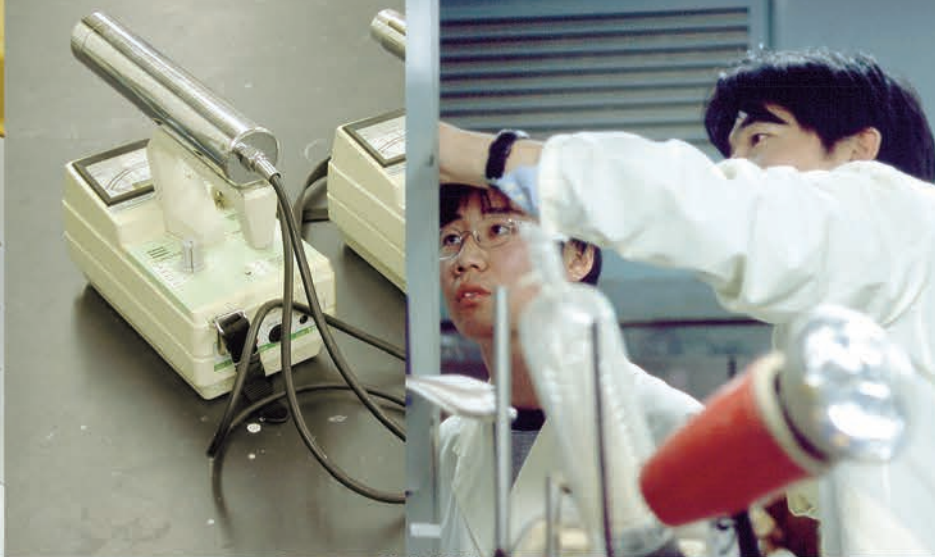
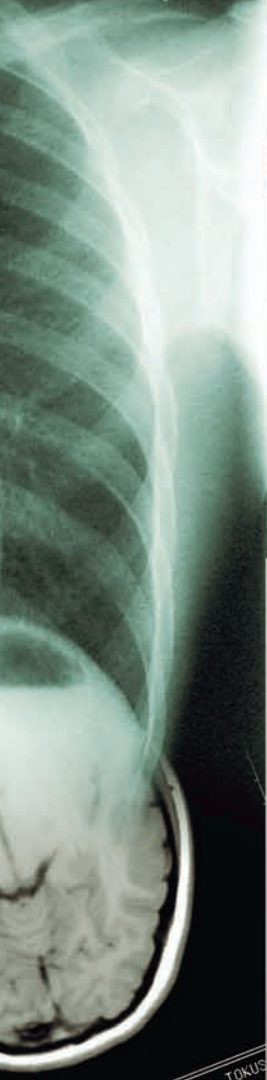
- 教員と学生の密な人間関係をもとに、豊かな人間性と幅広く深い教養を涵養します。
- 実習を通して学生が講義で学んだ知識をより深いものとするように指導します。
- 卒業研究を通して専門性と科学的思考力を深め、基礎的知識と技術を応用する能力を養います。

- 医療技術の多様化、高度化に対応して自律的に専門知識・技術を高めていく能力を養います。
- 職場においてリーダーシップのとれるメディカル・スタッフを養成します。
- 地域社会、国そして世界にボランティア精神を持って貢献できる人材を養成します。

専門領域

医用放射線科学

医用・環境放射線の人体への影響、放射線計測の技術、放射線・磁気共鳴等を用いた医用画像の作成方法、および医用技術の急速な進歩に対応した生体計測技術、放射線診療・治療機器の原理と特性を学びます。また、病院医療情報の管理・提供のためのコンピュータ支援システ



ム、マルチメディア応用技術を学びます。

診療放射線技術学

X線、放射性同位元素および磁気共鳴などを用いた疾病の放射線診断法及び得られた医用画像と疾病との関連を学びます。また、放射線治療技術について腫瘍の生物学的性質と共に学びます。さらに、医用放射線機器の管理法及び関係法規などを学びます。

○ 大学院進学

取得可能な資格

○ 診療放射線技師国家試験受験資格

卒業後は ...

主な進路

- 国公立病院, 大学病院, 診療所
- 健診センター
- 放射線機器関連の製作, 開発, 販売会社
- 放射線非破壊検査会社及び放射線管理部門





概要

専攻の理念

生命の尊厳、医の倫理を理解し、広い教養と専門知識を持ち、広く国民の保健医療の向上と発展に寄与できる創造性豊かな臨床検査技術者の養成を目指します。

教育目標

- 基礎教育を充実し、幅広い知識と創造性を養うことにより、生命の尊厳、医の倫理、医療の進むべき道を理解できるような全人教育を行います。
- 医療技術の専門化、高度化、多様化に柔軟に対処できるように、高度の専門的知識と技術を学びます。
- 不断の研究を通じて、医療の発展に貢献できる学際的・国際的人材を養成します。
- 教育機関における指導者、地域医療の場におけるリ-

ダーとなるべき人材を育成します。

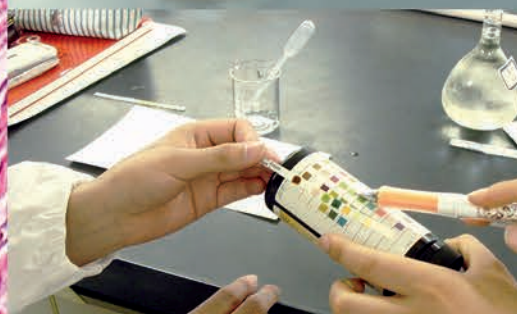
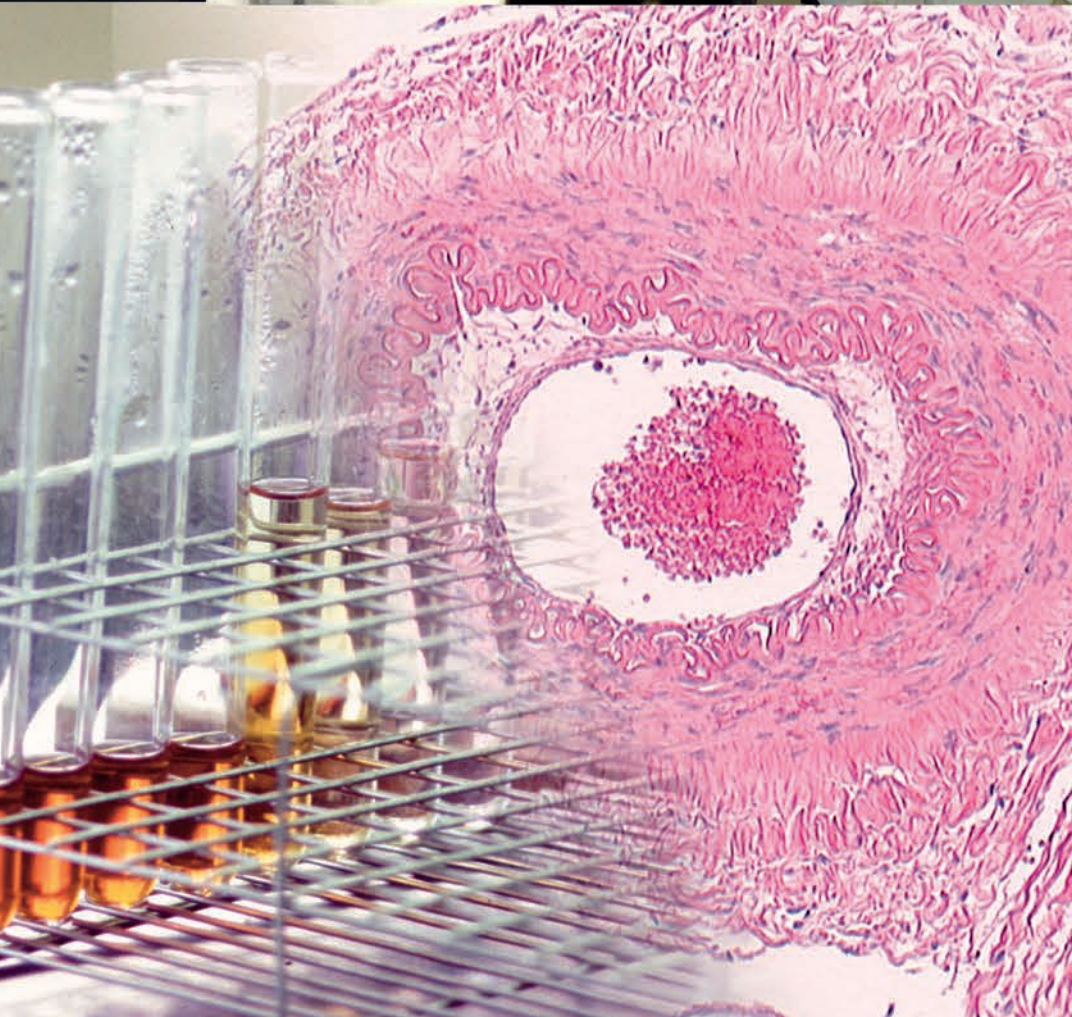
- 疾病発生と環境との関わりを重視し、環境科学教育を行います。

専門領域

機能系検査学

生体の情報及び機能を把握するための検体検査と患者を直接検査する生理学的検査について学びます。

生体の代謝機能を反映する検体成分（血液、尿、体液、組織など）を化学的な分析方法によって測定し、疾病の診断、病態の経過観察及び予防に役立てる科目を履修します。また、心電図、超音波、MRIなどの医療機器を駆使し、患者に苦痛を与えず、多くの生体情報を把握して、治療方針、経過観察に役立てる生理学的な科目を履修します。



形態系検査学

生体を構成する臓器、組織、細胞の形態を観察し、異常と疾病の関係を理解し、異常を発見する検査技術及び理論を履修します。また、疾病をもたらす病原体や免疫反応と、それによって引き起こされる生体反応について理解を深めたり、血液学的検査や遺伝子工学等の手法を応用して、正確な病態情報を把握することによって、医療に役立つ科目を履修します。

- 血液センター
- 研究所，大学・企業研究室
- 大学院進学

取得可能な資格

- 臨床検査技師国家試験受験資格
- 遺伝子分析科学認定士試験（初級）受験資格（科目選択による）

卒業後は ...

進路

- 国公立病院，大学病院，診療所
- 検査センター
- 保健所

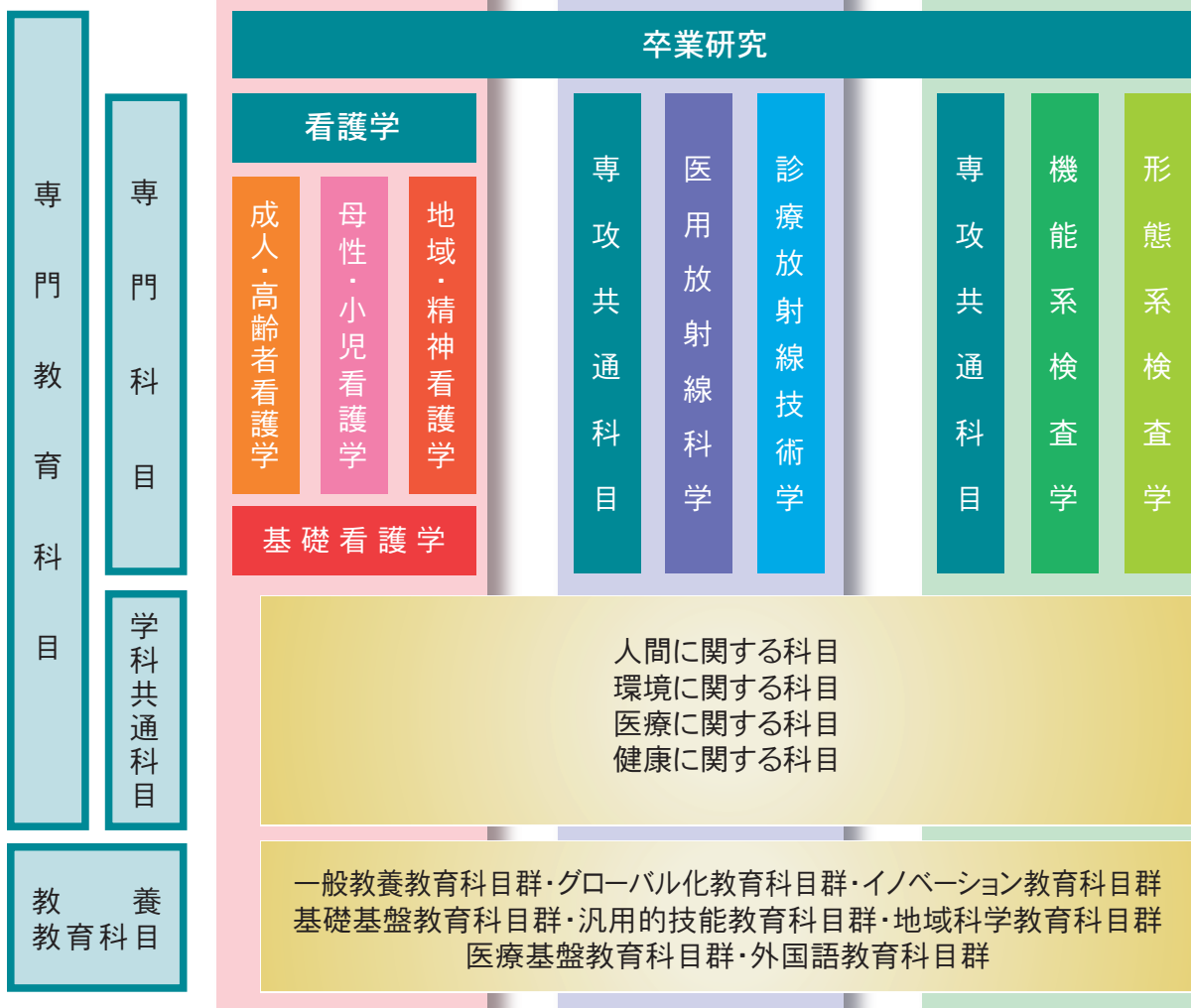


看護学専攻

放射線技術科学専攻

検査技術科学専攻

卒業後の 取得学位	学士（看護学）	学士（保健学）	学士（保健学）
国家試験 受験資格	看護師 保健師（科目選択による）	診療放射線技師	臨床検査技師



ビデオ教材配信システム(VISUALEARN)を導入しています



マルチメディアコンテンツ利用による自習環境の整備

臨床技術向上のための人体モデルを医学部で共用しています



注射モデル、生体シミュレータなどを利用した実習

(VISUALEARNは医学映像教育センターの登録商標です)

教 養 教育科目

- 一般教養教育科目群
 - 歴史と文化
 - 人間と生命
 - 生活と社会
 - 自然と技術
- グローバル化教育科目群
- イノベーション教育科目群
- 基礎基盤教育科目群
 - 基礎数学
 - 基礎物理学
 - 基礎化学
 - 基礎生物学
 - ウェルネス総合演習
- 汎用的技能教育科目群
 - S I H道場
 - 情報科学
 - スタディスキル
 - コミュニケーション
- 地域科学教育科目群
- 医療基盤教育科目群
- 外国語教育科目群
 - 英語
 - ドイツ語
 - フランス語
 - 中国語

学科共通科目

- 人間関係論
- 生化学 I
- カウンセリング
- 解剖生理学 (I・II・III・IV)
- 衛生学
- 保健学概論
- 医療経済論
- 社会福祉概論
- 放射線衛生学
- 医療安全管理学
- 介護実習
- チーム医療論
- 教育指導論
- 薬理学
- 栄養学
- 精神保健
- 免疫学 I
- 病理学 I
- 医学統計学
- 医学統計学演習

専 門 教 育 科 目

専 門 科 目 ・ 卒 業 研 究

- 基礎専門
 - 疾病論 I・II・III・IV・V・VI・VII
- 基礎看護学
 - 看護学概論, 看護理論, 看護技術 I・II・III・IV, ヘルスアセスメント, 基礎看護学実習 I・II, 高齢者ふれあい実習, リスクマネジメント
- 成人・高齢者看護学
 - 成人看護学概論, 成人援助論 I・II, リハビリテーション看護論, がん看護論, 成人看護学実習 I・II, 高齢者看護学概論, 高齢者援助論, 高齢者看護学実習
- 母性・小児看護学
 - 母性看護学概論, 母性援助論, 小児看護学概論, 小児援助論, 母性看護学実習, 小児看護学実習, 母児関係論, 子どものメンタルヘルス
- 地域・精神看護学
 - 精神看護学概論, 精神看護援助論, 精神看護学実習, 在宅看護学概論, 在宅看護援助論, 在宅看護学実習, 地域看護学概論, 公衆衛生看護学概論, 公衆衛生看護援助論, 公衆衛生看護学実習, ケアマネジメント, 健康教育方法論, 学校保健論, 産業保健・看護論, 保健医療福祉行政論, 健康管理論, 疫学, 家族看護学, ケアシステム論, 養護概説 I・II, 健康相談活動, 養護実習
- 総合看護学
 - 原書講読 I・II, 看護管理学, 看護教育学, 看護研究 I・II, 看護倫理, 国際看護活動論, 災害看護, 看護導入実習, 看護統合実習

看護学専攻

- 医用放射線科学
 - 放射線生物学, 放射線計測学, 放射線計測学実習, 核医学計測学, 核医学計測学実習, 画像基礎論, 画像基礎論実習, 医用画像情報学 I, 医用画像情報学 II, 制御システム工学, 放射線機器工学 I, 放射線機器工学 II, 放射線機器工学実習, 医用画像機器工学, 医用画像機器工学実習, 核医学検査機器工学, 放射線治療機器工学, 放射線物理学 II, 放射化学 II, 電子計算機工学演習, 医用システム工学, 磁気共鳴学
- 診療放射線技術学
 - 先端医療と放射線, 画像解剖学 I, 画像解剖学 II, 診療画像学 I, 診療画像学 II 実習, 診療画像学 II, 診療画像学臨床実習, 核医学技術学実習, 核医学技術学臨床実習, 放射線治療技術学, 放射線治療技術学実習, 放射線治療技術学臨床実習, 放射線腫瘍学, 関係法規, 放射線管理学, 放射線管理学実習, 臨床技能実習, CT画像技術学, MRI技術学
- 専攻共通
 - 臨床医学概論, 画像病態学, 保健科学, 基礎医学実習, 放射線物理学 I, 放射化学 I, 放射化学実習, 応用数学 I, 応用数学 II, 電気電子工学, 電気電子工学実習, 医用工学 I, 医用工学 II, 医用工学実習, 専門外国語, 情報活用演習, 医療情報処理学演習, 国際医療活動論

放射線技術科学専攻

- 卒業研究
- 機能系検査学
 - 生化学 II, 生化学実習, 保健学, 環境衛生学, 保健環境学実習, 臨床化学 I・II, 臨床化学実習, 放射性同位元素検査技術学, 生理学実習, 生理検査学 I・II, 画像検査学, 生理検査学実習, 画像検査学実習, 臨床画像検査学, 分析化学
- 形態系検査学
 - 解剖学実習, 病理学 II, 病理学実習, 病理検査学, 病理検査学実習, 微生物学 I・II, 臨床微生物学 I・II, 微生物学実習, 医動物学, 医動物学実習, 臨床血液学 I・II, 臨床血液学実習, 免疫学 II, 免疫検査学, 輸血検査学, 免疫検査学実習, 輸血検査学実習, 分子遺伝学, 遺伝学, 遺伝子検査学 I・II
- 専攻共通科目
 - 検査機器総論, 医用工学概論, 医用工学実習, 臨床医学総論, 臨床病理学総論, 臨床検査総論 I・II, 臨床検査総論実習, 検査管理総論, 医療法規, 臨床技能実習, 電子計算機概論, 電子計算機概論実験, 専門外国語, 病態栄養と臨床検査, 健康食品学, 健康食品法規, 国際医療活動論

検査技術科学専攻

医用デジタル画像処理及び3次元画像可視化技術の演習



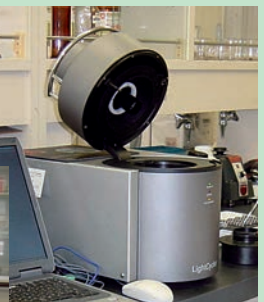
デジタルX線システムを利用した実習



実習用リアルタイムPCR(遺伝子増幅定量)システムの導入



大腸菌などの遺伝子の定量解析法の技術を修得します



学生定員

専攻	入学定員*	収容定員	現員**
看護学	70 (10)	300	297 [284]
放射線技術科学	37 (3)	154	159 [41]
検査技術科学	17 (3)	74	73 [50]

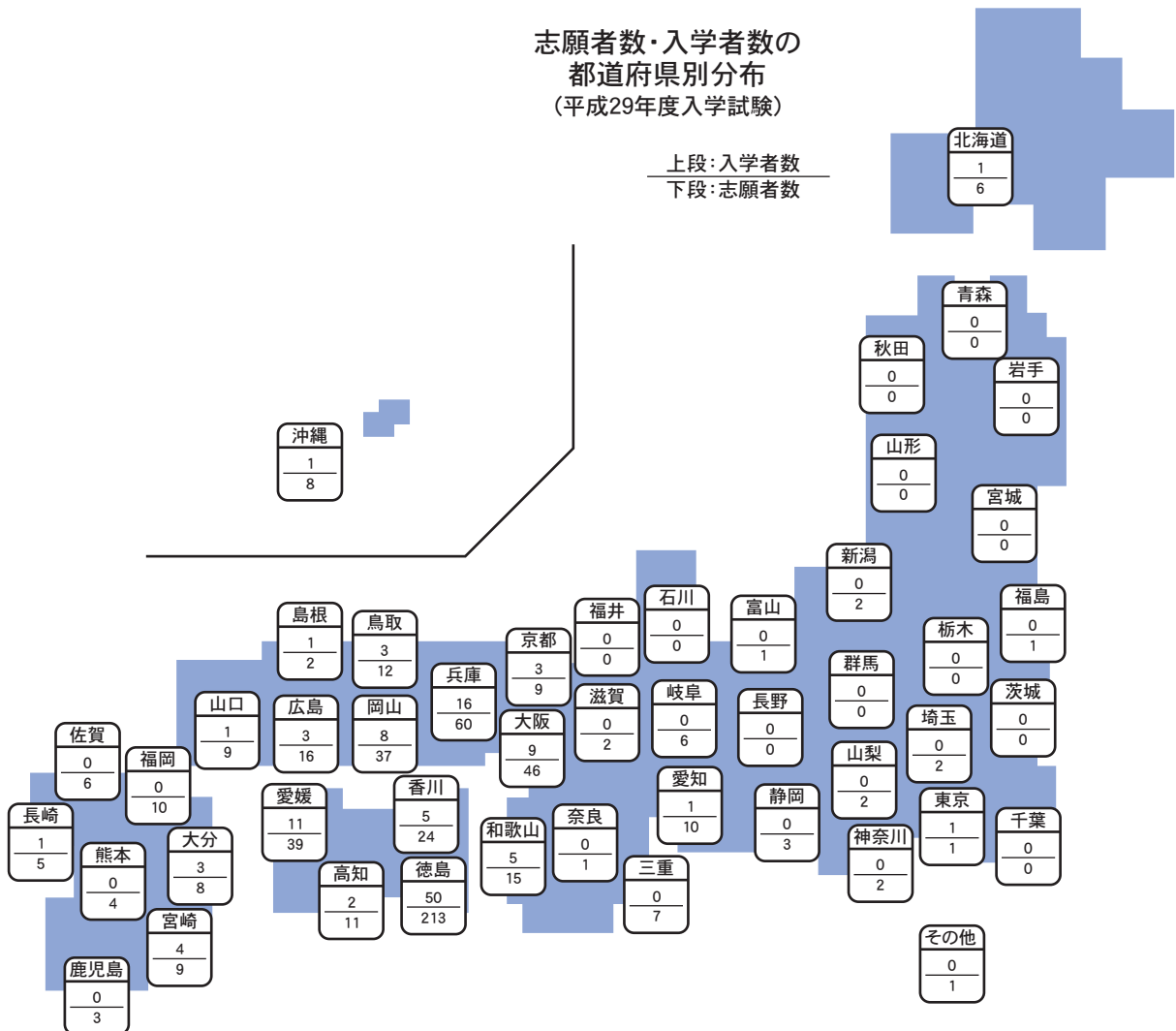
* ()内の数は、3年次編入学定員で外数です。平成16年度から受け入れています。

** 平成29年4月1日現在。[]内の数は、女子学生数を示し、内数です。

入学生地域別比率

志願者数・入学者数の
都道府県別分布
(平成29年度入学試験)

上段:入学者数
下段:志願者数



前期日程

専攻	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	入学者数
看護学	40	117	2.9	97	2.4	41	40
放射線技術科学	21	95	4.5	80	3.8	22	22
検査技術科学	12	45	3.8	36	3.0	12	12

後期日程

専攻	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	入学者数
看護学	10	142	14.2	62	6.2	12	9
放射線技術科学	8	103	12.9	55	6.9	10	10

推薦入学

専攻	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	入学者数
看護学	20	44	2.2	44	2.2	20	20
放射線技術科学	8	22	2.8	22	2.8	8	8
検査技術科学	5	23	4.6	23	4.6	7	7

社会人特別選抜

専攻	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	入学者数
看護学	若干名	1	—	1	—	1	1

帰国子女特別選抜

専攻	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	入学者数
看護学	若干名	0	—	0	—	0	0
放射線技術科学	若干名	0	—	0	—	0	0
検査技術科学	若干名	1	—	1	—	0	0

3年次編入学

専攻	募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	受験倍率	合格者数	入学者数
看護学	10	33	3.3	30	3.0	9	7
放射線技術科学	3	3	1.0	3	1.0	2	1
検査技術科学	3	2	0.7	2	0.7	2	1

●平成29年度入学試験の結果です。

●入学者特別選抜には上記以外に、私費留学生の入学者選抜があります。

保健科学教育部保健学専攻[博士課程(前期・後期)]

理念

今日必要とされる医療に対し、保健学の各分野が協力して実地臨床に役立つ新しい知識を構築し、臨床応用を志向した教育・研究を推進することで、健康増進と疾病予防および高度医療・回復支援・生活支援を推進する。

目標

- 革新的な進歩に伴う多様化、高度化、専門化した医療環境に対応できかつ、生命の尊厳を重視し、健康増進を使命とする医療人の育成
- 急激な少子・高齢社会に対応した保健・医療・福祉の充実のために貢献できる人材の育成や、地域社会との連携を保ちつつ、地域における保健・医療・福祉の多様なニーズに対応できる人材の育成
- 薬学・工学系などの関連分野と密接な連携を保ちつつ、時代に即した教育・研究を実践できる高度専門職業人の育成
- 高度先進医療や健康・医療に対するさまざまなニーズに対応するために、臨床応用を志向した、かつ健康増進と疾病の予防、医療、回復支援および生活支援に資する学問を推進、発展させることができる教育・研究者の育成
- 従来の学問の枠組みでは対応しきれない新しい医療に果敢に取り組み、保健学の立場をふまえ、新しい学問を構築できる教育・研究者の育成

[博士前期課程]の教育研究領域

看護学領域の概要

医療機関での高度な専門看護の実践者や地域の人々の健康支援者、教育・研究者を育成することを目指し、基盤形成支援看護学分野、健康生活支援看護学分野、ウイメンズヘルス・助産学分野、保健医療学分野の4つの専門分野からなっています。看護学と看護ケアの質の向上のために実践的・実証的教育研究を通して地域社会に貢献することを目指します。

なお、高度実践看護師、がん看護専門看護師などと養護教諭専修免許取得を目指すコース、並びに助産実践コース(助産師国家試験受験資格等)を設けています。

医用情報科学領域の概要

高度な画像診断・治療技術を修得し、技術革新に対応できる人材の養成を目指し、医用情報理工学分野と放射線科学分野の2分野を設けています。絶えず進展する理学・工学を応用して先進医療機器の研究・開発を進めるとともに、放射線の人体・環境影響、および放射線や電磁界を用いた生体情報の解析を行い治療技術の高度化に対応できる技能を有する人材育成を可能にします。さらに遠隔医療などの医療情報システムや病院情報管理システムの高度化に即応するための画像管理や情報システム管理能力を有する高度専門家の育成を行います。

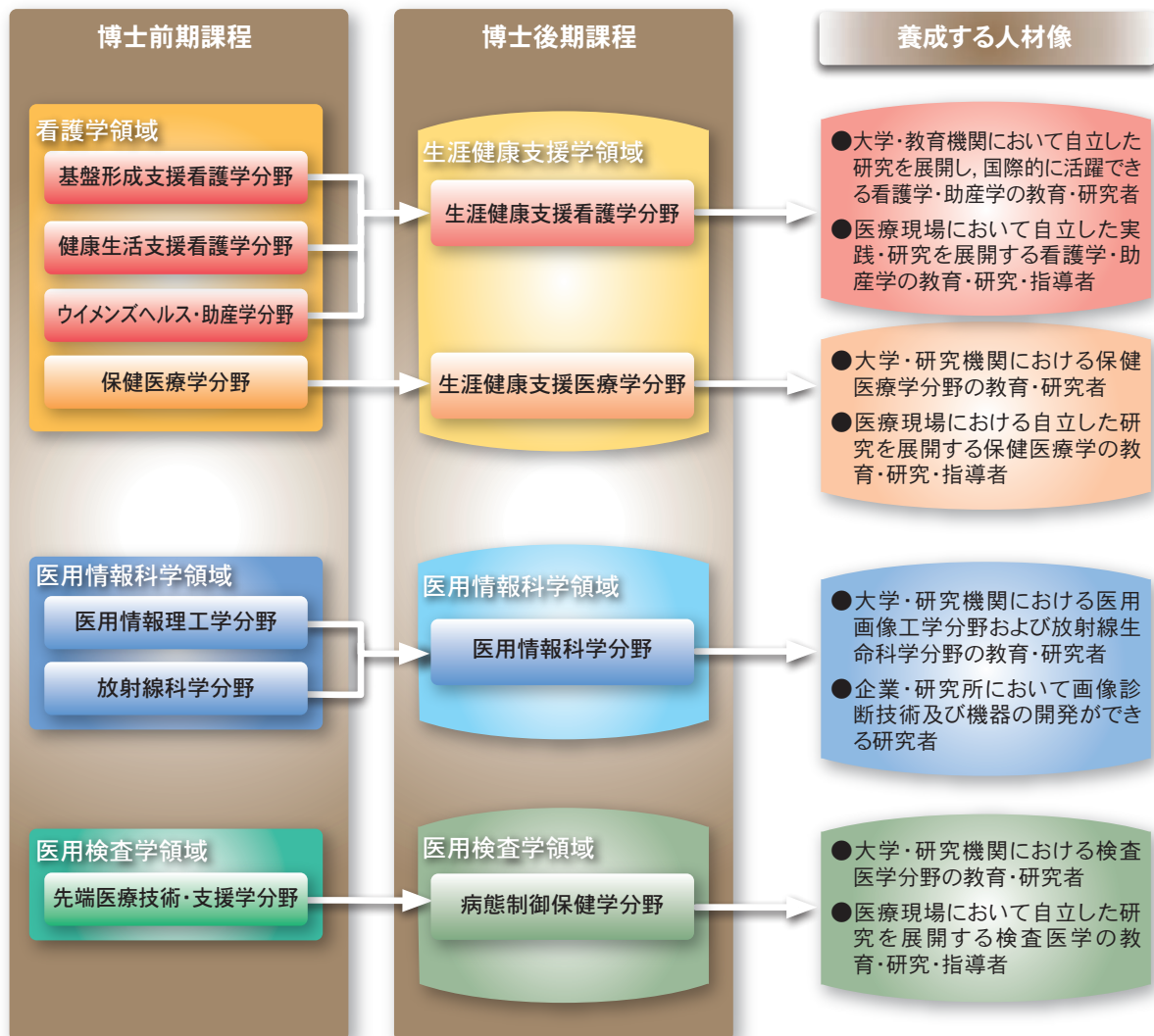
医用検査学領域の概要

高度化した医療診断技術を習得し、新しい検査法や解析法の開発を研究する人材の養成を目指し、先端医療技術・支援学分野を設けています。本分野では、生理機能解析学、病理解析学、細胞・免疫解析学、微生物・遺伝子解析学、癌の遺伝子解析学、生殖補助医療学等の研究手法を用いて新しい検査法や解析法の開発と研究を進めます。また、臨床現場での要請に即応した先端医療技術に習熟し、かつ生命倫理を尊重する高度専門家教育を行います。

[博士後期課程]の教育研究領域

<p>生涯健康支援学領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生涯にわたる健康支援に資する科学的で、実地に即した学問を確立する国際的に活躍できる教育・研究者の育成 ● 高齢化や心の不健康状態などの社会問題に対応するため、保健学の立場から学問として発展させる教育・研究者の育成 	<p>生涯健康支援看護学分野</p> <p>生涯健康支援医療学分野</p>
<p>医用情報科学領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な生体情報から必要な情報を効率よく抽出、解析、表現する方法や病態に対応した高効率の検査の開発とそれを担う国際的に活躍できる教育・研究者の育成 	<p>医用情報科学分野</p>
<p>医用検査学領域</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一般の医療現場で用いることができる、細胞や病原菌などの遺伝子・タンパク質等の情報高分子を利用した検査手技を開発する国際的に活躍できる教育・研究者の育成 	<p>病態制御保健学分野</p>

博士前期課程と博士後期課程の関係と養成する人材像

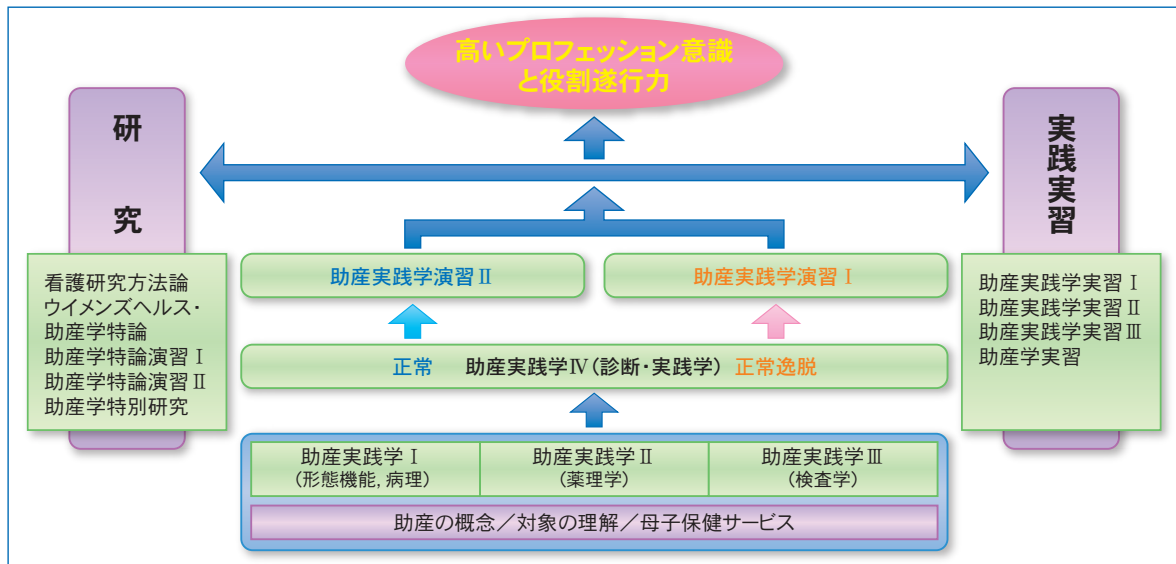


大学院助産実践コース

助産師になるためには、いくつかの教育課程があります。本学の助産実践コースは、大学院修士課程（看護教育終了後2年課程）での助産教育です。学生は、所定の単位(58単位以上)を履修し、学位審査に合格すると、修士(看護学)の学位とともに助産師国家試験受験資格が得られます。1学年定員は8名です。

大学院での助産師教育は、責任を持って助産業務を果たせる質の高い助産師の育成、並びに助産学領域での教育・指導力のあるリーダーとなる人材の育成を目的としています。大学院修士課程で助産を学び、助産師としての臨床経験を積んだ後、大学院博士課程で学ぶ道が開かれています。

カリキュラム構造



学校保健のスペシャリストを目指す“養護教諭専修免許状”

【専修免許状の意義】

専修免許状は、教育職員免許法第四条に定められた教員免許状で、主に大学院においてその免許に関わる領域の学問を、より清深な程度に修めたことを担保するものとして位置付けられています。



【養護教諭専修免許取得要件】

入学時に、養護教諭一種または二種免許を取得していること、または、取得見込みであること（保健師免許に付帯する場合を含む）が条件です。また、入学後、保健科学教育部において開講されている科目のうち、指定された科目の単位を取得し、教育委員会に申請することで養護教諭専修免許状が授与されます。

【本課程が目指す養護教諭像と将来性】

子どもを取り巻く社会環境がめまぐるしく変化している中で、学校に通う児童・生徒の心身の健康や発育においては、現代特有の多くの課題が生じています。本課程では、現代を生きる子どもたちの「生きる力」を支援できる、高い資質と能力を備えた養護教諭の養成を目指しています。本課程で専修免許を得た修了生は、毎年教員採用試験に合格し、すでに教育現場で養護教諭として活躍しています。

養護教諭は、学校現場で唯一医学的知識を持つ専門職として、意見や判断を求められる立場にあります。日々の救急処置や保健指導、特別な支援が必要な子どもへの対応、外部の専門機関との連携など、期待される役割は拡大し多様化していますが、たくましく成長する子どもたちを見守り、時には笑顔に励まされながら、大きなやりがいを感じています。



阿南市立山口小学校養護教諭
平成26年度修了 加藤千代子さん

がん看護のプロフェッショナル, がん看護専門看護師への道!

がん看護専門看護師とは、がんの治療・療養の過程で複雑な健康問題をもつ患者やその家族に対して、ケアとキュアの統合による高度な看護学の知識・技術を駆使して看護ケアを提供する、資格認定を得たがん看護のプロフェッショナルです。さまざまな副作用や苦痛を伴うがん治療を安全かつ効果的に受けられるよう支援することや、がん性疼痛や不安・苦悩に対する緩和ケア・生存率にとらわれないその人らしい療養生活の支援に卓越した看護実践力を発揮します。また、がん医療チームが効果的に機能するよう調整することやコンサルテーション（相談）、教育、研究を行うことも重要な役割として期待されています。

がん看護専門看護師になるには、がん看護の実務経験3年を含んだ合計5年以上の臨床経験と、大学院でがん看護専門看護師の教育課程を修了した後に、認定試験に合格することが必要です。大学院では、がんの病態生理学や治療方法、がん看護の理論や援助論などについて、講義や演習だけでなく実習を通して学修します。本学院では、平成22年にがん看護専門看護師の教育課程が認定され、現在までに7名のがん看護専門看護師が認定試験に合格して徳島県内外で活躍しています。あなたのがん看護専門看護師への関心をぜひ実現させてください。



日本で最初に脳神経看護領域の高度実践看護師の教育が始まりました!!!

徳島大学大学院において、がん看護専門看護師について2つめの専門看護師教育課程として、脳神経看護領域の高度実践看護師の教育を2015年4月から開始しました。脳神経看護領域の高度実践者として自律した6つの機能(実践・教育・相談・調整・倫理調整・研究)を身につけるよう教育課程を整えています。この資格を取るためには、学部教育を修了し看護師国家免許を得た後、病棟や外来での看護実務を5年以上経験し、そのうち脳神経看護関連の実務経験が3年以上必要となります。大学院で所定単位を修了した後、認定試験に合格し、初めて与えられる資格です。医療チームの一員として自律して脳神経看護領域の高度実践看護師の役割が取れるよう「頑張って資格を取りたい」という希望に燃えた学生が入学しております。

脳神経看護領域でとくに重要な疾患に脳卒中があります。脳卒中(脳血管障害)は、わが国の死因順位の第4位ですが、要介護支援を要する疾患の第1位で、要介護5(寝たきり)になった原因割合は、脳卒中が35%と今なお重点的な治療や看護を提供しなければならない領域です。

おもな実習病院は徳島大学病院で、1998年国立大学で初めて第3次救急施設でありながら脳卒中患者の直搬送を行うStroke Care Unit (SCU)および脳卒中センターを開設し、年間300名を越す脳卒中患者を受け入れ、急性期から重点的な治療や看護を提供しています。このように実習施設に恵まれた中、脳神経外科学や神経内科学、放射線医学領域のスペシャリストである医学領域の教授陣や脳神経看護領域の看護教員が教育を担当します。最新の治療・診断の知識をもとに、脳神経看護領域に必要な高度な看護実践力を備えた人材の養成をめざしています。



「脳神経領域の神経徴候の評価法」の演習の一場面



「急性期病態の重篤化回避アセスメント」の演習の一場面

4

- 前期開始
- 春季休業終了
- 入学式
- オリエンテーション
- 新入生研修



10

- 後期開始
- 大学祭



5

- 五月祭



11

- 開学記念日
- 入学試験(社会人特別選抜)



6

- 四国地区大学総合体育大会
(6月～7月)

12

- 冬季休業開始

7

- 全日本学生選手権大会
(インカレ)
- 前期試験

1

- 冬季休業終了
- 大学入試センター試験

8

- 夏季休業開始
- オープンキャンパス
- 3年次編入学試験
- 大学院保健科学
教育部入学試験



2

- 後期試験
- 入学試験(推薦)
- 入学試験(前期)
- 看護師国家試験
- 診療放射線技師国家試験
- 保健師国家試験
- 臨床検査技師国家試験
- 助産師国家試験

9

- 高齢者ふれあい実習
- 夏季休業終了
- 前期終了



3

- 入学試験(後期)
- 卒業式
- 学年末休業開始
- 後期終了





交通

飛行機

東京(羽田) — 徳島 1時間10分
 福岡 — 徳島 1時間30分
 (徳島 — 福岡 1時間40分)

鉄道

岡山 — 徳島(特急) 2時間10分

高速バス

京都 — 徳島 2時間45分
 大阪 — 徳島 2時間30分
 関西空港 — 徳島 2時間45分
 神戸(三ノ宮) — 徳島 1時間40分

フェリー

和歌山 — 徳島 2時間

JR徳島駅からの距離・交通手段・所要時間

医学部保健学科(蔵本キャンパス)まで約4km

JR利用の場合 17分

JR徳島線蔵本駅下車徒歩10分

バス利用の場合 25分

徳島駅前より徳島市営バス「中央循環線(右回り)」、「上鮎喰」行、「地蔵院」行又は「名東」行に
 乗車し、「蔵本中央病院, 大学病院前」又は「医学部前」下車徒歩6分

蔵本キャンパス



医学部保健学科



徳島大学蔵本キャンパスの航空写真。2つの矢印が画像上で交差するところの建物が保健学科棟です。

徳島大学医学部保健学科

〒770-8503 徳島市蔵本町 3-18-15

<http://portal2.medsci.tokushima-u.ac.jp/Plone>



お問い合わせは、

徳島大学蔵本事務部医学部総務課総務係

Tel.088-633-9116

E-mail: isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp



入試関連のお問い合わせは、

徳島大学蔵本事務部医学部学務課第二教務係

Tel.088-633-9009

E-mail: isygakumu4k@tokushima-u.ac.jp